

鴨川の歴史を学ぼう

1 鴨川とまち・人とのかわり

神聖な川「鴨川」

今から約1200年前の延暦13年(794年)、桓武天皇は長岡京から京都に都を移しました。

京都の地は、中国の風水という考えによれば「四神相応」*1の地で、鴨川はその守り神のひとつとして平安京にとって重要な意味をもつ川であったとされています。



斎王代禊の儀(さいおうだいみそぎのぎ)

提供:京都新聞社

平安京ができた頃、しばらくの間、神事は桂川で行われていましたが、しだいに鴨川で行われるようになりました。このため鴨川を神聖な川としてきれいに保つよう狩猟で捕らえた獲物を洗うことを禁じた命令(844年)も出されました。

京都三大祭りのひとつである「葵祭」では、「斎王代」など行列に参加する人々が、上賀茂神社や下鴨神社の境内で身を清めるため、鴨川やその地下水を使っています。

上賀茂神社の境内を流れる「ならの小川」は鴨川の支流です。境内から流れ出たのち明神川と名前を変え、川沿いに立ち並ぶ社家*2の庭内にその水がとりこまれ、かつては神官が神事に用いたとされています。

*1 四神相応……天の四つの方向に守り神が司る最も良い場所で、東の流水(青龍)-鴨川、西の大道(白虎)-山陰道、南のくぼ地(朱雀)-巨椋池、北の丘陵(玄武)-船岡山と言われている。

*2 社家……神社につかえた神官の屋敷のこと。

人々の暮らしを支えてきた「鴨川」

鴨川は、京都に住む人々の暮らしに密接なかかわりをもつ河川です。

昔の京都のまちの中には、大路や小路にそって水路が設けられていたと言われており、鴨川の水や京都の豊富な地下水は、これらの水路を潤し、生活用水や灌漑



納涼床(江戸時代)

提供:中山道広重美術館

用水として人々の暮らしを支えてきました。また、その水は、茶の湯などの水文化、豆腐や湯葉といった食文化など現在まで受け継がれている多くの京都の伝統を育んできました。

また、暑い夏に鴨川で涼む習慣は、平安時代からあったと言われていたのですが、川の中に床几*1をならべて夕涼みをするようになったのは、江戸時代になってからとされています。その後の河川改修などで、鴨川の中の床几は、みそそぎ川につくられることとなり、現在の形態になりました。鴨川の納涼床は、京都の夏の風物詩として、今でも多くの人々で賑わいをみせています。

*1 床几……折り畳み式の腰掛け。(川の中に床几を並べる風景は現在でも貴船川で見られます。)